

<先週の説教から>

『創立記念礼拝・ヘブライ 52ー

私たちも宿営の外へ』

武田真治牧師

出エジプト記33:7-11 ヘブライ手紙13:10-14

今日は私共の教会の創立63周年を覚え、神様に今までの御導きと御守りを感じながらこの礼拝を献げています。今日はこの礼拝にふさわしい聖書箇所が与えられたと感謝しています。それは10節の「わたしたちには一つの祭壇があります。」です。この手紙は“ヘブライ人たち”に向けて書かれていますから、旧約聖書の伝統に生きて来た人たちの考え方や生き方を踏まえています。この10節も前提となっているのは、旧約聖書に出て来る様々な祭壇(=動物の血を献げたり、動物の脂肪を燃やすための祭壇。モーセ時代の幕屋や王政時代のエルサレム神殿での礼典の中心でした)に対して「私たち(=キリスト者)には(新しい)祭壇があります」と胸を張って語っている言葉だと言えます。では、この“わたしたちの祭壇”とは何のことでしょうか?

この言葉の後には「(かつて)幕屋に仕えている人たちは、それから食べ物を取って食べる権利がありません」でしたと続きます。そう言っていることは、逆に新しい祭壇では“食べ物を食べる、食べ物が載せてある”ことになります。そして、次に続く言葉は「罪を贖うための動物の血は、大祭司によって聖所に運び入れられますが、その体は宿営の外で焼かれます」です。ここに“血と体”とあることから分かりますように、この祭壇はイエス様が弟子たちに命じられた“聖餐(=ひとつのパンを裂き、ひとつの杯からぶどう酒を飲む)”を行うための《聖餐台》と言い得るのです。

当時のクリスチャンたちは、まだ教会という建物もなく、礼拝を行う専用の場所もなかなか持てなかったでしょう。イエス様を礼拝するためには日曜日の早朝、誰かの信徒の家に集まったのでしょう。その礼拝は何よりイエス様が『私を記念するために行え』と命じられた聖餐式を行うために、まず聖餐台を整えたのです。それは普段、使っている机や台に白

い布等を掛け、その上にパンとぶどう酒を用意するというものであったでしょう。でも、それこそが「わたしたちの祭壇」であると。今の礼拝堂でも、まさにこの聖餐台を中心にして“礼拝”が献げられているのではないのでしょうか?

次の「イエスもまた門の外で苦難にあわれた」は、まさにエルサレムの城壁の外にあった“ゴルゴダの丘”で十字架に架かれたことを指します。「だから、わたしたちも宿営の外に出て、みもとに赴こう」と奨められています。これは、①日常から出ると、②この世から出るの両方の意味を兼ねています。《礼拝》の時間と場所は、この世から“出る”時と場所であり、そこでこそイエス様と会える場所なのです!

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 7月19日(水) 20:00
II. 7月20日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題: 説教題揭示奉仕を覚えて
担当者: (水)高橋 (木)東
祈りに覚える人: 小林さん 齋藤さん

【教勢報告】

主日礼拝 男23 女51 計74
祈祷会 I. 男5 女3 計8 II. 男2 女7 計9
日曜学校 幼稚科3 小中科4 計7
ハンナの会(7月11日(火)) 男1 女8 計9

【次週主日礼拝】 7月23日(日)

聖書: イザヤ書 62:6~7
ヘブライ人への手紙 13:17~21

説教: 「ヘブライ54ー 永遠の大牧者」
武田真治牧師

讃美歌: 207(1)、32、155(1、2、4)、409
(1と2)、474(1~3)、91(1)

【次週当番表】

司式: 金刺長老 奏楽: 中村 礼拝: 茨木長老
献金: 末留 杉村 受付: 金刺 坂田
会堂準備: 大野 勝村 黒澤 鶴巻
西尾

看板: 中村 週報: 飯島 お花: 飯島

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・聖歌隊練習
・礼拝/伝道/牧会/教育/社会 各委員会

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう!主に癒され、整えられて」

2023年 7月 16日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>